



4 改革の進め方

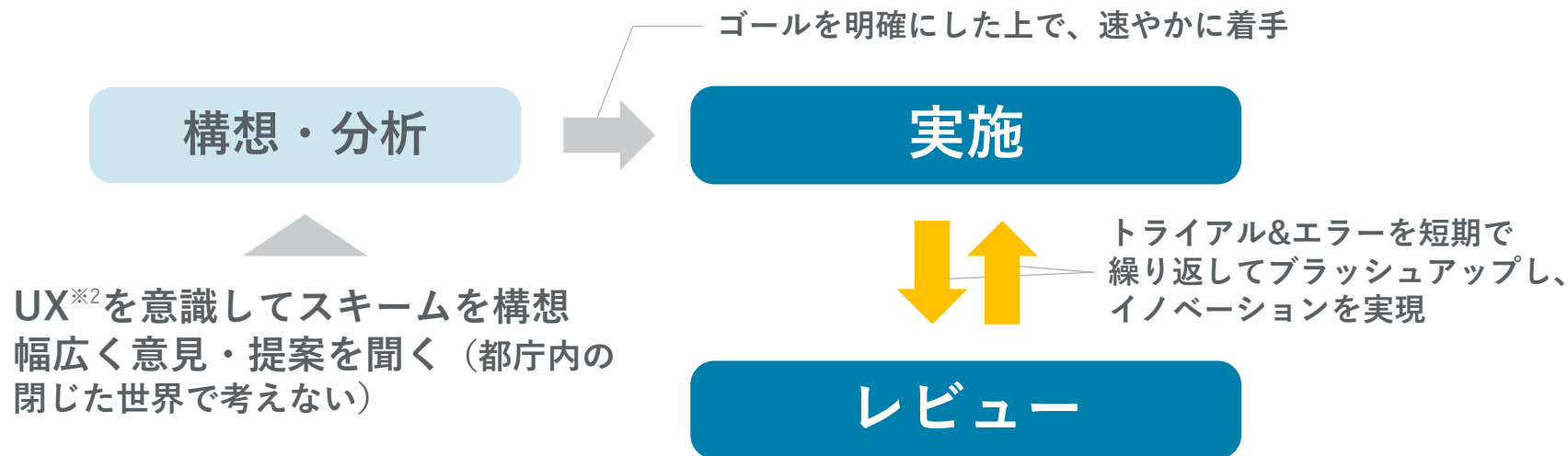
“アジャイル”と“デザイン思考”

長期的な視点を持ちつつ、環境やニーズの変化に大胆かつ弾力的に対応し、アジャイル^{※1}に改革を進めていきます。

また、都民が何を求めているのかを起点に、ユーザーの目線で政策・サービスを作り上げる「デザイン思考」を徹底して改革を実行します。

※1 ソフトウェア開発において、ニーズや環境変化に迅速・柔軟に対応するため、要件定義と開発を短いサイクルで繰り返すなど、顧客とエンジニアが一体となって開発に取り組む手法を「アジャイル開発」と総称する。

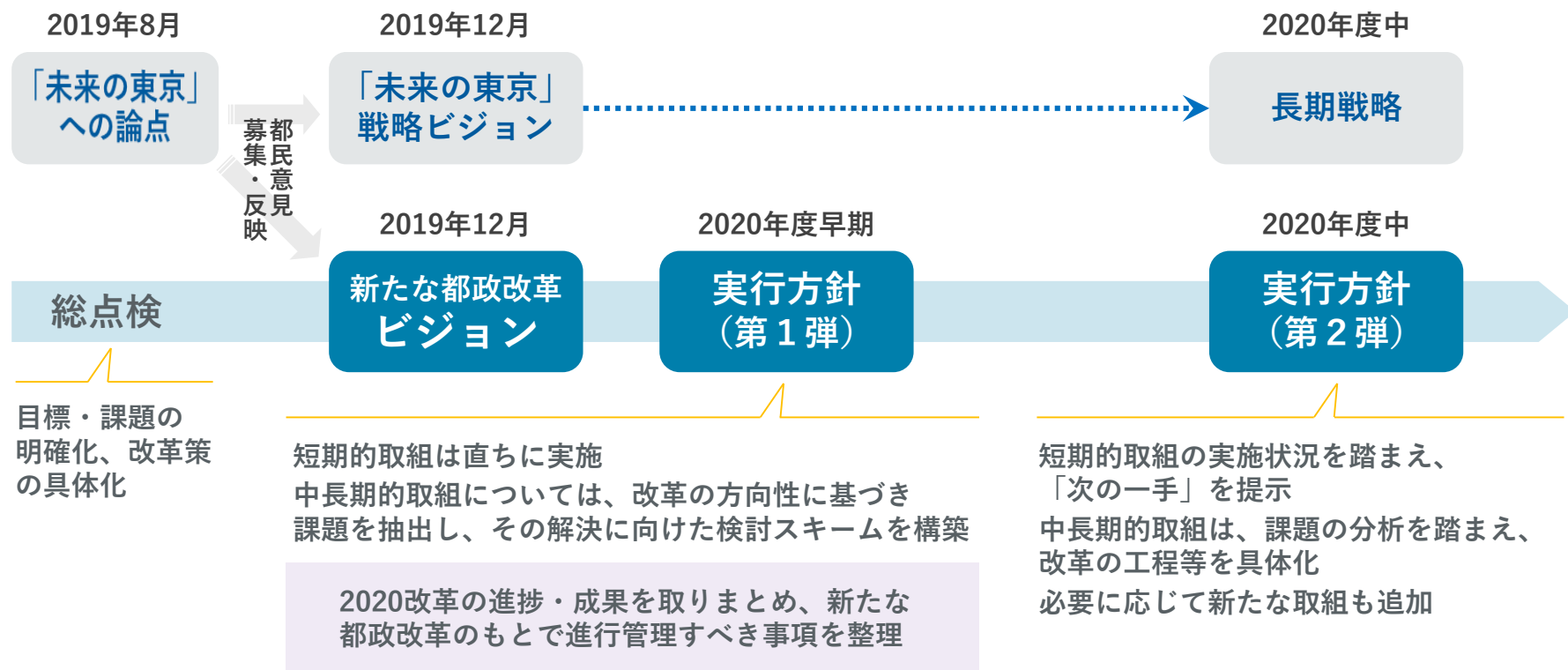
※2 ユーザー・エクスペリエンス。サービスや製品との関わりを通じて利用者が得る体験・印象



改革のタイムライン

長期的な視座のもと、目指す目標を定め、速やかに着手します。

環境変化等に応じた機敏な見直しも含め、「次に打つべき一手は何か」を常に議論し、改革の進行マネジメントを行っていきます。



先行実施する取組

今後、改革の具体策を順次、実行方針として取りまとめていきます。
可能なものは、実行方針（第1弾）を待たず、今年度中から速やかに取組を進めていきます。

高度・多様な人材の確保

- ▶ ICT人材新職種による2021年度からの採用開始に向け、制度設計

「3つのレス」の推進

- ▶ 文書の電子決定率80%の達成に向けた取組の徹底（2020年度）
- ▶ 更なるペーパーレス化を推進し2020年度までにコピー用紙使用量30%削減(2016年度比)
- ▶ QRコード決済など都有施設における多様なキャッシュレス決済手段の導入拡大

総務事務改革

- ▶ 権限・フローをゼロベースから徹底的に見直し
- ▶ 各部署に分散している給与・旅費等の事務を集約処理（2020年度末から開始予定）

東京2020大会後の執行体制の構築

- ▶ 東京2020大会後の組織の課題等に対応するため、組織の再編を検討

ICT環境の刷新

- ▶ タブレットの配備、チャットの活用など、能率的に働くための環境を整備
- ▶ 各職場の特性にフィットしたレイアウトの導入などワークプレイスの改革を実験的に開始

規制改革・行政手続改革

- ▶ 規制改革の推進に向けた会議体の設置準備（2020年度の設置を予定）
- ▶ 行政手続コスト（行政手続に係る申請者の負担）の削減に向けた手法を確立